

【小施策評価(平成29年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	4	人が集い活力を生むまちづくり	小施策 主管課等	経済企画課	
施策	22	商業・サービス業の振興	評価 責任者	小原 勝博	内線 3710
小施策	22-1	魅力ある商店街の形成支援	評価 シート 作成者	高橋 久幸	内線 3711

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
<p>・景気回復の兆しが見られるものの、「まちの顔」である中心市街地をはじめ、各商店街、市全体の卸・小売の年間販売額や従業員数などが減少傾向にあることから、大型店や量販店にはないサービスや地域の特性を生かした魅力ある商店街や個店づくりにより、商店街の集客力を維持向上させる必要がある。また、岩手医科大学附属病院の移転後の跡地活用について、市民や商工関係者の関心が高まっていることから、中心市街地の活性化を検討する必要がある。</p> <p>・高齢化の進展と相まって、地域によっては、徒歩で行くことができる距離に商店がない、あるいは、買い物に行くための交通手段がないなど、買い物の利便性が低下している地域があることから、地域や事業者と連携して対応する必要がある。</p>		<p>中心市街地の活性化に向けて、関係機関と連携しながら、来街者の増加などを図る取組を推進するほか、市域全体では郊外型大型店の進出や多様化する消費者ニーズに対応した、魅力にあふれた活気のある商店街づくりを推進する。</p>
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(対象をどのようにしたいのか)
商店街等の団体		商店街ににぎわいが創出される。

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成29年度実績)

実績値の推移				実績の評価			
指標		単 位	目指す方向	成果点		成果の要因分析	
指標① 中心市街地の小売年間販売額		百万円	↗	<p>・中心市街地の小売年間販売額が前年水準を維持している。</p> <p>・商店街への指導講師派遣への助成件数が前年より増加した。</p> <p>・中心市街地の大型店が共同で事業に取組んだほか、行政、商工団体、商店街と中心市街地の賑わい創出に向けた意見交換を行う場が設けられている。</p>		<p>・地域共通カードが約10万人に普及し、カード加盟店のポータルサイトでの情報発信も開始したことから、中心市街地の回遊性の維持に寄与した。また、各商工団体の実施する事業に対し補助を行ったことで、商工業の振興に寄与した。</p> <p>・商店街への指導講師派遣への助成事業について周知を行ったことで、事業の利用に繋がった。</p> <p>・大型店と商店街等が中心市街地の賑わい創出に向けて共通認識を持つことで継続して連携をとる体制構築に繋がった。</p>	
当初値 (H25)	68,272	H31目標値	71,700	H36目標値	75,100		
<p>※H27以降の実績値を商業統計調査ベースとしている</p>				<p>問題点</p> <p>・中心市街地の店舗が、小売業から飲食、サービス業に業態変化しており、この流れに歯止めがかかっている。</p>		<p>問題の要因分析</p> <p>・消費者が郊外大型店舗などへ移っていることやインターネット環境の普及による無店舗型小売業の増加の影響が考えられる。</p>	
指標② 中心市街地の歩行者・自転車通行量		人	↗	<p>・中心市街地の自転車歩行者通行量が前年より増加し、減少傾向に歯止めがかかった。</p>		<p>・「商店街情報発信事業」、「商店街活性化事業」、「空き店舗活用事業」等の各種ソフト事業が、区域内の商店街の活性化及び魅力の強化に寄与し、歩行者通行量に対して一定の効果があった。</p>	
当初値 (H25)	48,332	H31目標値	52,300	H36目標値	53,000		
				<p>問題点</p> <p>中心市街地の自転車歩行者通行量が、前年比較では増加したが、依然として当初を下回っている。特に、自転車通行量の減少が大きくなっている。</p>		<p>問題の要因分析</p> <p>・観光客入込数は増加しており、交通の利便性に繋がる基盤整備事業や、ソフト事業を実施し一定の効果があったものの、年間を通した通行量の増加に至っていないため、引き続き中心市街地の商店街、個店の魅力を発信していく必要がある。</p> <p>・自転車利用は主に高校生や大学生が多いと見込まれるが、その年代の者が中心市街地を訪れる動機付けとなる魅力が低下してきている。</p>	

今後の方向性(平成30年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	<p>★…30年度着手済または着手予定</p> <p>☆…31年度以降の着手を検討</p>
<p>★ 各種事業を推進していくにあたって、市の補助金、負担金は重要な財源となっていることから、現状維持が必要と考えられるが、各事業の内容については十分な精査を行ったうえで交付額を算定していく必要がある。</p> <p>★ 平成29年度に策定した、「盛岡市商業振興ビジョン」に基づき、商業振興施策を体系的、計画的に推進していくとともに、「中心市街地活性化つながるまちづくりプラン」に基づき、関係団体が相互に連携し、継続して中心市街地の活性化に取り組む。</p> <p>★ 引き続き地域共通ポイントの定着を図ることなどにより、地域カードシステムを市内全域に拡大し、利用機会の拡大に努めるなど、中心市街地の各商店街等の回遊性を高めていく。</p> <p>☆1 商店街等が実施する研修会等について支援する。</p> <p>☆2 中小企業の事業承継に向けた取り組みを支援する。</p>	
<p>★ 各種事業を推進していくにあたって、市の補助金、負担金は重要な財源となっていることから、現状維持が必要と考えられるが、各事業の内容については十分な精査を行ったうえで交付額を算定していく必要がある。</p> <p>★ 平成29年度に策定した、「盛岡市商業振興ビジョン」に基づき、商業振興施策を体系的、計画的に推進していくとともに、「中心市街地活性化つながるまちづくりプラン」に基づき、関係団体が相互に連携し、継続して中心市街地の活性化に取り組む。</p> <p>★ 引き続き商店街等が実施するイベント等への補助を行い、商店街等への来街促進の取り組みを支援する。</p> <p>★ 引き続き中心市街地の商店街・個店の新たな魅力発信に向けた効果的な支援策について、各商店街へのヒアリング等を通じて検討を進める。</p> <p>☆1 商店街等が実施する研修会等について支援する。</p> <p>☆2 中小企業の事業承継に向けた取り組みを支援する。</p>	